

多摩のくらし～歳時記～七福神巡り～



古来日本人は神仏に対した時、ただありがたいと思ひ、厳かな気持ちで手を合わせてきました。そんな日本人の信仰で、神仏が混然となったのもごく自然なことでした。初詣は今や私たち日本人にとって、その信仰の対象が何であれ、年の初めに思い思いの神様や仏様に、その年の幸運と平和を祈願する国民的行事です。

同じ正月の七草までに行われてきた「七福神信仰」もそんな民間信仰のひとつで、日本古来の守り神、恵比寿神と、古代インドの神である、大黒天、毘沙門天、弁財天、中国から渡来した布袋尊、福祿寿、寿老人の七つの神をひとまとめにして、福を招く神としたものです。仁王教という経典の中に「七難即滅、七福即生」という経文がありますように、教え導きを信じて行えば、この世の七つの災難はたちどころに消滅し、七つの福が生ずるといふものです。そもそも七という数は、道教でいうところの吉祥文字のひとつで、大変に縁起のよい

数とされているといひます。

七福神信仰が、一般庶民の間で信仰と行楽を兼ねた「七福神巡り」という形態をとるようになったのは江戸時代のことです。家康をはじめ、徳川家三代の将軍に深く信任された天海（慈眼大師）が、人心を鎮める行政の一環として、七福神信仰を説いたことに始まったといひます。江戸時代末期に流行した七福神巡りも、明治維新以来、度重なる戦争や震災によって次第に忘れ去られていきましたが、近年再び観光コースなどとして脚光を浴びてきたようです。戦後約70年、平和な時代が流れた現在、平和が同様に長く続いた江戸時代末期に流行した七福神信仰が復活してきたことは、単なる偶然なのでしょう。何はともあれ、正月の清々しい空気の中で幸運を祈願する七福神巡りが、私たちをまた新たな気持ちにさせてくれることは、とても嬉しいことです。（川口キン）

たま今昔

区制が敷かれてから40年以上を経た多摩区の昔の姿を探ります

その6 月見台商店街（生田駅南から）



昔 昭和48年ころ 周囲の変化に対し、今なお残る坂の風景

約40年前に撮影された場所には、現在マンションが建ち、大きな木々もありまして、同じ場所に立って撮影することはできませんでした。代わりに津久井道の歩道橋から見た商店街の風景は、当時と比べて確かに住宅は増えていましたが、その中心を走る道の様子は変わっていないように感じられました。

「たま今昔」に掲載する昔の写真募集中!

ご自宅に眠っている、多摩区の昔の姿を捉えた写真を広報誌に掲載しませんか？
ご提供いただける方は、事務局までご連絡ください!

いつのころからか、月日が経つのを早く感じるようになりました。人生ってアツと言う間に終わってしまうのではないかと。そんな不安にも似た感覚で日々過ごしています。だからもっと明るく真面目に生きなければ...あぁ、秋ですね。（河崎）

■まち協のホームページ <http://tamaku-machikyoo.com/>

たまの顔 Club@ICT

中高年へのパソコン支援をしています!

パソコンの操作やソフトの活用にもどかしさを感じている中高年の方は多いはずです。

大人のパソコン部「CLUB@ICT」（代表：井坂資弘氏）は、まさしくそれらの疑問に答えてくれるボランティア的存在です。一般的な教室との違いは、基礎から応用の流れではなく、パソコン検診や困ったことへの実践的な対応を主に、懇切丁寧に指導して貰えることです。



多摩区にもこんな場所があるかと思うと心強い限りです。1回2時間、月2回程度、6か月間のプログラムも用意されています。詳しくはホームページを参照ください。

CLUB@ICT ホームページ
<http://yozamiya.com/club/>
CLUB@ICT 代表の井坂資弘さん

多摩区まちづくり協議会へのご意見、ご質問、プロジェクトへの参加申し込みはこちらへお願いします。

【事務局】〒214-8570
多摩区役所地域振興課まちづくり推進係
電話 935-3148 FAX 935-3391
メール 71tisin@city.kawasaki.jp



多摩区まちづくり協議会は、区民の自主的なまちづくり活動組織です。区民が取り組む地域活動を、年4回発行でお知らせしています。

私たちのまちづくり

多摩区まちづくり協議会 NEWS 2013年 (平成25年) 10月

41号



多摩の風景

生田緑地ばら苑

「バラ」が咲き誇る秋の生田緑地

生田緑地の中にある市内有数の観光名所「生田緑地ばら苑」。年に2回、春と秋に開苑します。秋は440種 4,000株のバラが咲き誇ります。春の533種、4,700株に比べちょっと少ないですが、それでも大きな感動を私たちに与えてくれます。昭和33年に向ヶ丘遊園30周年記念事業として、そして東洋一のばら苑としてスタートし、もう50年以上の歴史があります。平成14年の向ヶ丘遊園閉園の時、存続を求める市民の声に応え、「生田緑地ばら苑」として川崎市が維持管理を引き継ぎました。それほどこのばら苑は皆さまに愛されていたのです。

バラの楽しみ方は、花の色と形と香りにあるという本田薫苑長によると、バラを期間中最高の状態で来園者に披露するには、開苑時に3分咲きに調整するのがポイントとのこと。今年は天候が暑くて不安定だったので、育成管理が今までで一番難しかったそうです。ここでは50年前のバラが今でも元気に咲いていますが、実はこれって非常に珍しいことだそうです。そのバラを探すのも楽しみのひとつですね。

これからも見どころたくさん「ばら苑」から目が離せません。

※開苑期間は10月11日(金)から11月4日(月)、時間は平日10時から4時まで。さらに詳しくは044-978-5270(生田緑地ばら苑)にお問い合わせください。



+活動 生田緑地ばら苑ボランティア



芽接ぎ作業をしている様子
バラの育成管理には160人余りの市民ボランティアが参加しています。除草、剪定、施肥など、ばら苑にはなくてはならない存在です。健康のために応募したのに、自然も心から満喫できて本当に楽しいと、かなり評判は良いもよう。ボランティアは随時募集!初めての方ももちろん大丈夫です。

電話 044-200-2394 (川崎市公園管理課)

多摩区まちづくり協議会 まちづくり TOPICS

多摩区まちづくり協議会が内外で行っている
さまざまな活動の紹介や、身近なまちの情報
などを、トピックス仕立てでお届けします！

【まち協ホームページ】
<http://tamaku-machikyo.com/>



多摩★まち Cafe 記事 池田

9月25日(水)に行われた「多摩★まち Cafe」、今回は「安心して子育てできるまち多摩」と銘打ち、子育て支援団体の皆さまと、子育て支援に関わりたいシニアの皆さまとの、活発な意見交換が行われました。交流の中からは、新たなプロジェクトが立ち上がる兆しも!? 外遊びを教えたい、学びたい、つながりたい、



つなぎたい、さまざまな意見がぶつかる有意義な時間となりました。新たな活動につながる場にもなりますように。今回も大盛況!



牛乳パックでうちわ作り

8月19日(月)、区役所1階アトリウムで小学生の夏休みの自由研究に役立つ「夏休み!多摩区エコフェスタ」が行われ、多摩エコスタイルプロジェクトは「牛乳パックでうちわ作り」という企画で参加しました。



熱心にうちわ作りに取り組む子どもたち

区内の子どもたち10人が牛乳パック2枚に思い思いの絵を描き、それを丸く切って、割り箸を入れて、貼り付けて完成。家でも簡単に作れるので来年もぜひ作ってください。うちわで夏を涼しく。

エコスタプロジェクトは「ごみの削減や分別回収」の啓蒙にも取り組み中。一緒に活動しませんか。

真夏のゴーヤをエコに 食べよう

記事 どちらも
石郷岡

「エコショッピングクッキング」の第2弾、旬のゴーヤを材料とした料理教室が8月21日(水)、市民館料理室で行われ、子どもを含む20人が参加しました。



「ほんのり甘いゴーヤ」「苦いゴーヤを美味しく料理しよう チャンプルー」「ゴーヤの佃煮」「トマトのスープ」「美味しいゴーヤジュース」など、初対面の人たちが協力し合って作り美味しくいただきました。来年もゴーヤで緑のカーテンを作りましょう。

多摩の居場所ふらっと

地域の人たちが誰でも自由に立ち寄り、楽しいひと時を共有していただく、「あうん介護センター」で開いていた『多摩の居場所ふらっと』を、7月から柘形・菅・長尾の「いこいの家」で開催しています。

乳幼児がお母さんの手を離れて自由に歩き回り、それを見ておばあちゃんたちが微笑みます。小学生が割り箸鉄砲の作り方を習い、中学生がシニア世代とゲームを楽しむなど、微笑ましい、世代を超えた関わりが生まれることも。お近くの地域で開催する際には、ぜひのぞいてみてください。



いきいき体操をする子どもたち

すかいきっず ふれあいタイム 記事 どちらも 粕谷

7月24日(水)、すかいきっず主催『乳幼児親子と中学生のふれあいタイム』にふらっとメンバーが協力しました。当日は柘形中学校から希望者22人が参加。看護師さんに誕生からの発達過程の話を聞き、3kgある赤ちゃん人形を専用エプロンに入ると、「前が見えない!赤ちゃんってこんなに重いんだ!」と皆びっくり。その後、乳幼児親子の遊ぶホールへ。乳幼児のそばにおっかなびっくり寄りかかると、そのしぐさの可愛いさに顔がほころんでいました。引率の先生からは、学校では見られない優しい姿が見られたと感想をもらいました。



可愛い乳幼児に興味津々

たまたま子育てまつり 記事 有北

たまたま子育てまつりは11年前に、多摩区子育て支援会議をベースに、「NPO 法人ままとんきっず」と市民館、社協と「グレープ」というグループが中心となり、協働で始めたお祭りです。年々育ち、今年は約40団体が企画参加。実行委員会形式で、大学生などボランティアが多数関わっています。

毎年約4,000~6,000人の参加があり、今年は午前中が雨だったため比較的ゆったりしていましたが、午後晴れてからはどんどん参加者が増え、大盛況でした。



多摩の“子育て”集合!

登戸稲荷社の秋季例大祭 取材 井上

9月7日(土)、8日(日)に、多摩水道橋協の登戸稲荷社で、秋季例大祭が開催されました。8日には、登戸地区の各町会のはんてんを着た若者が大太鼓をひき、みこしをかつぎ、神酒所(休憩所・17か所)を巡り、社では神事、お神楽の奉納がありました。鼓動は町に響き渡り、ワッショイのかけ声は、町民に元気と勇気を与え、五穀豊穡(繁栄・健康)を願い、親睦・連帯をはかることが出来ました。境内には露店が並び、賑やかな秋のお祭りを、老若男女が楽しいときを過ごすことができました。



地域の賑やかなまつり

「孫に好かれるシニアになろう」(7月~9月開催) ~「安心して子育てできるまち・多摩」をめざして~

今回、初の3回連続講座として、かつ初の体験型講座(知る、視る、考える)として、右表のように開催しました。事前広報活動も積極的に行い、紙媒体(3紙)ならびに電波媒体でも取り上げていただきました。その結果、3回合わせたべ69人の参加が得られ、成功裏に終えることができました。さらに第3回目の講座で5つ提案が生まれ、それを9月25日(水)の「多摩★まち Cafe」にて地域活動団体の前でチーム代表者が発表しました。



① 思い思いに過ごす親子



② 大勢の親子で魚を探す



③ みんなで流しそうめん

第1回(座学)知る [7/31]

「多摩区における子育ての現状を知る」

- 多摩区こども支援室課長 太山和枝
- NPOままとんきっず理事長 有北いくこ
- 多摩区外遊び委員会委員長 稲田光世
- 月見台まちづくり委員会委員長 池野廣

第2回(フィールドワーク)視る

- 団体の活動現場を視る、声を聴く
- 親子のつどいの広場(写真①) [8/2、5、9、19]
- 二ヶ領用水での魚つかみ、水遊び(②) [8/24]
- こども夏まつり(③) [8/24]

第3回(ワークショップ)考える [9/7]

- 「シニアが子ども達の為にできること」
- 講演:土淵保育園園長 福田和子
- 現場報告会/提案づくり

第4期多摩区区民会議フォーラム

11月23日(土)13時30分~16時多摩区役所で開かれます。「コミュニティ」と「自然災害」について審議した内容を、区民の皆様にお話し、意見交換を行います。ぜひご参加ください。

観光ボランティアガイドツアー

11月30日(土)9時~12時、観光ボランティアガイドによるモニターツアーが実施されます。場所は、生田緑地とその周辺コースで「謎解きツアー」と「時を旅する体感ツアー」の2コース。

【申込】11月11日(月)必着で、ハガキに全員(1枚で2人まで)の氏名、代表者の電話番号、希望コースを記入し、区役所地域振興課まで郵送、もしくは持参。

まち協のイベント情報(11月~12月)

11/1(金)	他都市視察研修会 in 相模原市緑区(旧藤野町) 「藤野の住民がつくる持続可能なまちづくりの取り組みを観る」
11/9(土)	緑化センターまつり参加(ふらっと)
11/11(月)	多摩★まち Cafe(14~16時) テーマ:世代間交流 市民活動団体の話を聴き、参加者同士でテーマについて話し合います。
11/17(日)	ふらっと@長尾いこいの家
11/20(水)	多摩★まち大学 国保先生講演「風邪を引くのも悪くない」
12/22(日)	ふらっと@菅いこいの家

※ イベントの内容は変更になる場合があります。